ニコラス・マッカラ

2018年12月3日

JAPN320S-01

サイトリフレクション10番

今回の授業のテーマは一週間以上前からグループで「お金」になりました。お金というものは日常生活と色々な繋がりがあり、実用的面では文化的な面でもあります。さらに、お金をきちんと使うのにある国の通貨を読めて数える実力があります。というわけで、私達三人はお金を中心とした授業は生徒たちの勉強にもためになると思ってこのレッスンをしました。

11月の30日に今回の授業が起こり、前日に予め準備しておいたのは下記の通りです。

糸、円(1円玉、5円玉、10円玉、50円玉、100円玉、500円玉・1000円札、5000円札、10000円札)、ホワイトボード用のマーカーです。揃いました円ですが、紹介する前に生徒達を３つのグループで分けるつもりだったので、３つのグループに十分に円を集めるようにしました。これからレッスンの形を具体的に説明させてもらいます。

まずは生徒達は日本のお金文化を触れさせる前に基本の数字(1〜10)がある程度分かる必要がありました。私はホワイトボードに書いてある数字(漢字とロマジ)を指しながら声に出して発音しました。生徒達は繰り返しで全部の数字を発音してみました。こうして二回か三回目の後、３つのグループで分かれました。それから基本の数字を練習するついでに30や50の数字の言い方をするも教えました。十分過ぎでした。

私が集まった円玉を全部のテーブルを配って、その円玉について色々な話をしました。やはり最初から生徒達は気が付いたのは5円玉と50円玉の中心には穴が開いていることです。生徒達に何故小銭には穴が開いているのかと質問して、皆んなの推定を聞いた後、本当の歴史的な背景を語りました。それから集まった円玉で生徒達に円玉の言い方も数え方も教えました。ホワイトボードに書いてある漢字を指しながら円玉に書いてある同じの漢字を見せて、色々な円玉の組み合わせ（20円とか50円など）を言わせてみました。大体良かったです。充分に恋した後、次の活動に進みました。

全部のグループに1,000円と5,000円と10,000円札を配って、その札についての話を色々しました。例えば、生徒達はドルの場合は札に写真を写した人々はある時にアメリカの大統領の役割を果たした方だというのを知っていましたが。日本の場合は大統領ではなくて社会的に日本に大きな影響を与えた様々な背景を持っていた人だったというのが子供達は学びました。それから札の言い方も数え方を学ばせてみました。

評価の活動として、私のグループの中にある生徒達に1人ずつ、「（日本語ではこれは全部で幾らですか？」と聞いて、さらに授業で面白い覚えている円に関する事実とか背景を聞いてもらいました。結果的に大体良かったです。そして、余りの活動として日本の古い習慣（糸に小銭持つ事）のように、５円玉で生徒は一人一つあるネックレスを作って、持ち帰りました。

上手くいった点：

今までの行った授業のことをを全体的に考えてみると、今回の授業は色々な面では一番よかったの三つの授業の中だと思います。その理由の中で最も重要な点を書いておきます。一つ目は、生徒達の集中力を大体保ったということです。雨の降る日には天気が悪いという言葉のようにずっと保っていなかったこともあるというのは当然だと思います。二つ目は海外のお金のに関する関心を集めたことです。私達は予想していた通り、円は子供達がこの授業の時まで触れた通貨の種類とは独特の形があって、それで生徒達の外国のお金に対する好奇心を高めさせました。それによって異文化と自分達のお金に関する習慣にも深く話ができました。三つ目は生徒たちは自分から日本語の数字や数え方を積極的に学ぼうとしたことです。子供達は目の前のお金とホワイトボードに書いてあった数字に繋がりが気付き、前者のことに興味があったので、数字を学ぼうと努力しました。最後の上手くいった点は生徒たちが日本の文化を物理的に感じて持ち帰ることができました。

上手くいかなかった点：

今回の授業の場合は上手くいった点よりも上手くいかなかった点のほうが相当少なくてよかったです。もちろん、どのぐらいの数字をしっかりと学んだり、私が語ったお金に関する日本文化のことに対してどのぐらいの興味を出したのかは生徒達はそれぞれでしたが。そうは言っても、生徒達全員自分たちなりに日本文化をよく受け入れました。

次回の目標：

今回の目標の同じように生徒達に日本文化を物理的な方法で触れさせたいと思います。前からおにぎりを作る活動しようとおもっていますが、もしもその様な活動をすることにしたとしたら、中途半端なことにならないように早めに準備をしないといけないです。

感想：

全体的に考えてみると、生徒達は生まれて初めてある自分の元の文化と異なる文化を触れるに加えて、喜んで受け入れてくれて私はとても嬉しいです。いい意味では次回の授業に対する期待が大きくて生徒達をガッカリさせなくてはいけません。というわけでサイトビジットは二回しか残っていないので、最後の二つのビジットで私達のサービス目的に繋がっている授業をどう作ればいいのかしっかりと考えておきます。